



みんなで話し合う大切さ

全校集会のときに、「秋をかんじよう」に向けての話し合いが行われました。3つの縦割り班に分かれ、6年生が中心となり話し合いが進められました。

6年生が1年生を気づかい、話し合いに参加できるように声をかけてあげたり、自分の意見だけを通そうとするのではなく、相手の気持ちも汲み取りながら結論を出していこうとする子どもたちのやりとりは、大変微笑ましいひとときでした。

「新型コロナウイルス感染症予防対策の時期だから仕方がない」とするのではなく、できる限り子どもたちに必要な場を作っていくとともに、一人ひとりの子どもたちに今しか身につけることができない体験や心情を身に付けられるよう取り組んで参ります。

このような状況ではありますが、担任の先生方を中心に、着実に子どもたちのよさが伸びていると実感した瞬間でした。



「自分は愛されている」



ある著書にこのようなことが書かれていました。

『親が勝手にものごとを決めてしまうのではなく、子どもの意見に耳を傾けてくれる。それは、自分を家族の一員として大切に扱ってくれているに通じます。また、ほめて育ててくれる環境は、叱られて否定される環境と異なり、子どもにとって心地よい空間です。それらのことから、子どもは、「自分は愛されている」「自分は守られている」と感じ、家が安心できる場所だと認識するので。』《引用》

新型コロナウイルス感染症拡大に向けての予防対策もあり、保護者の皆様におかれましては、なかなか難しいところもあるかと思いますが、お子様の将来のために、このようなかかわりをお願いできればと思います。

ただし、お子様の様子を見る限り、間違いなく各御家庭でこのようなかかわりがすでにできているのだと思います。ありがとうございます。

《 引用資料 》

「子どもに勉強は教えるな」

開成中学校・高等学校校長 東京大学名誉教授 柳沢 幸雄 著

【校長のつぶやき】

- 白土 孝汰（しらと こうた）君は、1年生に校歌の演奏の仕方をやさしく教えてあげていました。できない人の思いや立場をきちんと理解した上で対応できるその人間力の高さにびっくりです。

